# ひだか平和新聞

第 6 巻第　3 号 (通巻 55 号)　3 月号　2006 年　3 月 15 日



日高市平和委員会
事務局　日高市横手２-3-12
ｔｅｌ・ｆａｘ　042-982-4160


## 日高九条の会
# 取りくみ進む「こころ座」公演

### ―若いお母さんたちにも働きかけ
### 戦争のむなしさ　９条の意味　知ってもらおう―

前号でお知らせした日高九条の会の「こころ座」公演は会場も中央公民館（生涯学習センター）2階視聴覚室ときまり、チラシやチケットも出来て取り組みが進んでいます。演目もいぬいとみこ原作「**川とノリオ**」の他に宮沢賢治原作「**なめとこ山の熊**」の2本になりました。

前号で「川とノリオ」については簡単に触れました。今回加わった「なめとこ山の熊」に出演する風間さんは賢二のこの作品にかける思いを次のように話しています。

**なめとこ山の熊**　「なめとこ山の熊のことならおもしろい…」という書き出しで始まるこの物語は、宮沢賢治の代表作のひとつです。

なめとこ山に住む淵沢小十郎は、熊撃ちの名人といわれていますが、実は熊を撃ち殺しその毛皮と肝を売りながら生計をたてなければならない自分の商売を、因果なものと嘆いています。そして殺される側の熊たちも、その小十郎の気持ちが分かっていて、決して彼を憎んではいません。

小十郎と熊たちの、美しくも悲しい関係が、繊細な自然描写とともに描かれ、「生きる」という意味、「他を犯さずに共生できる方法はないものか」ということを深く考えさせられる作品です。

作家、井上ひさし氏は、「･･･芸術家の、熱に浮かされた独りよがりな賢治の部分を科学者が冷静に批判する、冷たい理論だけを尊しとして暴走する科学者賢治を宗教家賢治がたしなめる、そして宗教家賢治として教条的、独善的になるところを芸術家賢治の情熱と洞察力が和らげる。この三つの世界観がせめぎ合い、かつ励ましあってできたのが賢治の作品世界であって･･･{中略}･･つまり、どんな時代　になろうとも人類がぶつかるはずの難問に、賢治がすでに答えのようなものを与えてくれているのです･･･混沌としたこの時代の、聖書的な役割を果たしているのではないか･･･」と、その著書の中で述べておられますが、私もまさに、平和を考えるとき、人間というものが抱えている、この根源的な問題に改めて向き合いたいと、この「なめとこ山の熊」に取り組んでいます。

どうぞ、こころ座の「賢治の世界」をお聴きください。

***公演予定　4 月 22 日(土)　午前･午後の 2 回公演　会場　中央公民館 2 階視聴　　覚室***

国民投票法案、基地再編問題での岩国住民投票、日高市議会での国民保護法の具体化(条例制定)など平和をめぐる動きは急です。これらの問題をめぐって全国で草の根の運動が広がっています。日高でも近隣の市でもさまざまな取り組みが進められています。

こころ座公演は子どもたちの健やかな成長をねがい、何よりも平和な世界を願う若いお母さん達にみてもらおうと願って企画されました。学校、学童関連や労働組合など幅広い人たちの協力を願って働きかけを行なっています。ぜひ多くの方々のご協力をお願いいたします。

本号は事情で「こころ座」公演一本での発行になりました。

***日高市平和委員会のホームページ***　http://www.geocities.co.jp/HeartLand/2702/peace/heiwa.html